

7月3日(日)、令和3年度に第1回(9月)、第2回(10月)と開催してきた「住民会議」の第3回目を開催しました。子ども基本条例(仮称)の素案に対するパブリックコメントの実施に合わせて開催し、令和3年度にご参加いただいた方から10名が参加してくださいました。



## 条例素案へのコメント

条例の素案やそれに関連して様々なご意見をいただきました。これらの意見をどう活かすか、しっかり考えていきます。

- ・スポーツを通じて学ぶことも多いので、スポーツ環境の充実にも触れてもらいたい
- ・時代の変化に応じて条例を定期的に見直すようなニュアンスが必要では？
- ・放課後児童クラブや部活の地域指導者などはどこに該当するのか？
- ・救済という何か起こってからの記述はあるが、起こる前に子どもはどこに相談すればいいのか？
- ・既に町で実践されているサポートがあるならば、しっかりわかるようにすべきだ

## ふりかえりからスタート

第2回から約8か月経過していたため、昨年度のふりかえり、役場で行った意見の整理作業や地域での実践事例も交えて報告しました。

## 今後の取り組みで重視するポイント

島根県中山間地域研究センターの有田研究企画監からは、あらためて検証調査のデータをおさらいしながら、

「これまでの対策は、家庭の子育て支援や定住対策を主軸に行われてきたが、子どもの身近な育ちの環境は厳しさを増しており、今後は、地域や事業所や行政が協働した“まちぐるみの子育て環境づくり”がより不可欠」との説明を頂きました。

さらに、この日の住民会議を総括して、作って終わる条例ではなく、「実践しやすくするための条例」であること、また、地域によって状況も異なるが、「子育て環境を充実させていく」という、行政も町民の誰もが皆同じ目標に向かっていくための条例になることが望まれるというエールが送られました。

自然発生・自由参加のハッシュタグ



#おおなん子育て 町民全員でつながっていきましょう！

## 情報共有にSNSを活用してみよう

「行事が重なる中での開催となっている」、「掲示板のような小学生、中学生にも伝わる情報発信があるといい」、「住んでいるエリアはバラバラだけど、それぞれの実践がつながったり、相談できるような場があるといい」といった議論が挙がりました。

誰もが参加できて、誰もの負担が少ない方法として、SNSのハッシュタグ(=検索キーワード)を使って、まずはこの日参加したメンバーから情報共有しようという話になりました。

中でも比較的若い年代、高校生へも普及が広がっている「インスタグラム」を使って子どもや子育て・子育てに関する情報をシェア(共有)していきたいと思います。